

## 教科別授業改善推進プラン（外国語科）

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・解答率をみると、ほぼすべての児童が英語で表現することに意欲をもつことができている。

#### (2) 課題

- ・引き続き、ディクテーションなど、領域横断的な力を育む指導を充実すること。
- ・全学年共通の取組を継続して実施すること（主に、Phonics）。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率(観点別経年比較)

評価の記号は、平均正答率が目標値を「△…上回っている」「▼…下回っている」

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第6 学年	<b>観点別</b> ・聞く △ ・アルファベットの書き ▼ ・単語の読み △ ・英文の完成 ≍ ・英作文 ≍ (令和7年の6年生の結果)	<b>観点別</b> ・聞く △ ・アルファベットの書き △ ・単語の読み △ ・英文の完成 △ ・英作文 ▼ (令和6年の6年生の結果)	<b>観点別</b> ・聞く △ ・アルファベットの書き △ ・単語の読み ▼ ・英文の完成 ▼ ・英作文 ▼ (令和5年の6年生の結果)

#### (2)分析

6年	観点的には昨年度、一昨年度と異なる結果が見られた。これは、本年度の児童の実態によるものと思われる。分布をみると極端な2極化は見られず、一定の定着が得られている。 ○「聞く」「単語の読み」では、児童が日常生活に見聞することの多い英語表現については、確実な理解ができていることから、一般的な知識としての理解は身につけていると考えられる。 ●「英作文」は目標値を上回っているが、「英文の完成」とともに正答率は低く、十分に身に付いていないと考えられる。 ●「アルファベットを書く」とともに、「聞く」の中の「アルファベットを聞き取って表記する」ことも十分に定着していない。
----	--

### 3 重点課題

5年	・英語で表現することに対する興味関心を高めること。 ・アルファベットの大文字小文字を書き分けること。 ・英作文を書くことに慣れること。
6年	・意味を理解して英語で表現すること。 ・アルファベットを聞いて書くこと。 ・自分や身近な人について簡単な語句や基本的な表現を用いて書けるようにすること。

### 4 授業改善策

5年	・ALT や HRT とのやり取りする場面を多く設定し、英語を通してコミュニケーションをとる活動の楽しさを味わわせる。 ・ワークノートを活用し、大文字と小文字の表記のルールを繰り返し指導し、定着させる。 ・授業内で英単語や英作文を書く時間を確保し、慣れさせる。
6年	・授業内で英単語や英作文を書く時間を確保し、慣れさせる。 ・アルファベットとともに、聞き取った英単語を書くことに取り組みさせる。 ・例文を参考にしながら、自分や身近な人について簡単な語句や基本的な表現を用いて書く活動を充実させる。（プリントやノートを活用する。）

両学年 共通	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業の始まりや終わり方など、英語学習の展開についての ALT と HRT が一層連携しながら授業を進める。</li><li>・本年度も第4学年の外国語活動より、書く活動を取り入れる。(ノートを購入。)</li><li>・HRT のみで行う外国語・外国語活動の時間で、書く活動を充実させる。</li><li>・チャンツの活用、ALT とのやり取り、ミニゲームやペアとの交流など、input を output につなげる活動を多く取り入れる。</li><li>・单元ごとにスピーチなどの振り返りやまとめの課題を設定して、できたという達成感を感じてさせる。</li></ul>
-----------	--